



# 2018年3月期 第2四半期決算報告

2017年11月7日

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください
- 本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨ててあります

1. 2018年3月期第2四半期決算報告

2. 構造改革の中間報告

3. 2018年3月期の見通し

## 前年比

- 上期営業利益は41億円減の230億円
- 構造改革は着実に進捗、収益性が改善し、FPD露光装置の販売台数減の影響を緩和
- 映像事業は選択と集中で減収ながら増益
- 半導体装置事業は赤字が大幅減少

## 前回 予想比

- 全セグメントにおいて計画を上回る  
全社ベースでは減収ながら60億円の増益
- 映像事業は収益性改善が進み24億円上振れ

## 中間 配当金

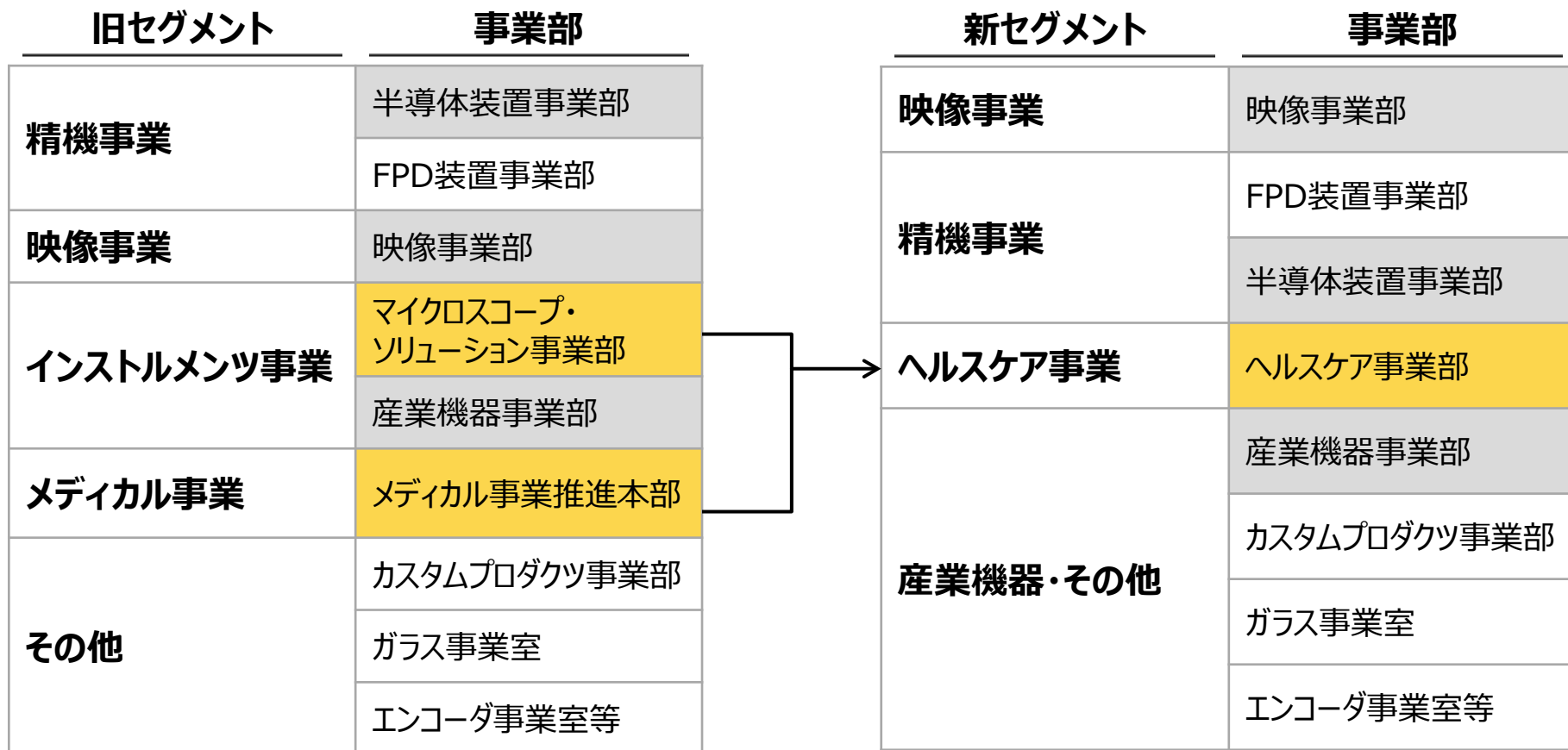
- 配当性向40%以上の株主還元方針に沿って  
前年12円から14円へ引き上げ

# 2018年3月期 上期：連結売上収益・損益



単位：億円	17年3月期 上期実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
<b>売上収益</b> 増減比	<b>3,438</b>	<b>3,310</b>	<b>3,284</b>	<b>▲154</b> (▲4.5%)	<b>▲26</b> (▲0.8%)
<b>営業利益</b> 売上収益比	<b>271</b> 7.9%	<b>170</b> 5.1%	<b>230</b> 7.0%	<b>▲41</b>	<b>+60</b>
<b>税引前利益</b> 売上収益比	<b>295</b> 8.6%	<b>180</b> 5.4%	<b>214</b> 6.5%	<b>▲81</b>	<b>+34</b>
<b>当期利益</b> (親会社の所有者に帰属) 売上収益比	<b>221</b> 6.4%	<b>130</b> 3.9%	<b>139</b> 4.2%	<b>▲82</b>	<b>+9</b>
<b>FCF</b>	<b>174</b>	<b>-</b>	<b>70</b> (236)	<b>▲104</b>	<b>-</b>
<b>為替：USドル</b> <b>ユーロ</b>	<b>105円</b> <b>118円</b>	<b>111円</b> <b>121円</b>	<b>111円</b> <b>126円</b>	売上収益への影響	
				<b>+111</b>	<b>+34</b>
				営業利益への影響	
				<b>+10</b>	<b>+3</b>

注：FCFの（ ）内数値は、昨年募集した国内希望退職者への割増退職金等の支払額を除いた値



事業の連携を高める為、組織構造を見直し

# 2018年3月期 上期: セグメント別業績



単位: 億円		17年3月期 上期実績	18年3月期 上期実績	前年同期比
映像事業	売上収益	1,783	<b>1,752</b>	▲2%
	営業利益	148	<b>154</b>	+6億円
精機事業	売上収益	1,153	<b>980</b>	▲15%
	営業利益	251	<b>201</b>	▲50億円
ヘルスケア事業	売上収益	240	<b>252</b>	+5%
	営業利益	▲6	<b>▲21</b>	▲15億円
産業機器・その他	売上収益	260	<b>298</b>	+15%
	営業利益	12	<b>15</b>	+3億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—
	営業利益	▲133	<b>▲119</b>	+14億円
連結	売上収益	3,438	<b>3,284</b>	▲4%
	営業利益	271	<b>230</b>	▲41億円

FPD装置事業の減益影響を収益性改善で抑制

注: 「各セグメントに配賦されない全社損益」はセグメント間取引額消去を含めて表示

# 2018年3月期 Q2: 連結売上収益・損益



単位: 億円	17年3月期 Q2実績	18年3月期 Q2実績	前年同期比
<b>売上収益</b>	<b>1,745</b>	<b>1,581</b>	<b>▲164</b>
増減比			(▲9.4%)
<b>営業利益</b>	<b>91</b>	<b>106</b>	<b>+15</b>
売上収益比	5.2%	6.7%	
<b>税引前利益</b>	<b>111</b>	<b>83</b>	<b>▲28</b>
売上収益比	6.4%	5.2%	
<b>当期利益</b> (親会社の所有者に帰属)	<b>75</b>	<b>51</b>	<b>▲24</b>
売上収益比	4.3%	3.2%	
為替: USドル ユーロ	<b>102円</b>	<b>111円</b>	売上収益への影響 <b>+95</b>
	<b>114円</b>	<b>130円</b>	営業利益への影響 <b>+13</b>

為替差損や関連会社投資に対する減損損失などで当期利益は減益

単位：億円	17年3月期 上期実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上収益	1,783	1,750	1,752	▲31 (▲1.7%)	+2 (+0.1%)
増減比					
営業利益	148	130	154	+6	+24
売上収益比	8.3%	7.4%	8.8%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	142万台	—	131万台	▲11万台	—
交換レンズ	205万本	—	202万本	▲3万本	—
コンパクト デジタルカメラ	143万台	—	139万台	▲4万台	—

- **前年比：**市場縮小の中、高付加価値製品への選択と集中が進み、営業利益率は改善
- **前回予想比：**販売経費や研究開発費の効率化を進め、前年比営業増益へ上振れ



単位：億円	17年3月期 上期実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上収益	1,153	1,000	980	▲173 (▲15.0%)	▲20 (▲2.0%)
増減比					
営業利益	251	190	201	▲50	+11
売上収益比	21.8%	19.0%	20.5%		
半導体露光装置 新品／中古	11/6台	—	7/4台	▲4/▲2台	—
FPD露光装置	51台	—	34台	▲17台	—

- **前年比**：FPD装置事業の減益を半導体装置事業の赤字大幅減少で緩和  
FPD露光装置の販売台数減少の影響が大きく、全体では減収減益
- **前回予想比**：FPD露光装置2台の売上が下期にシフトするものの、両事業ともに製造原価やサービス事業の収益改善が進み、営業利益は上振れ

単位: 億円	17年3月期 上期実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上収益	240	250	252	+12	+2
増減比				(+5.0%)	(+0.8%)
営業利益	▲6	▲30	▲21	▲15	+9
売上収益比	▲2.5%	▲12.0%	▲8.3%		

- **前年比:** 売上は網膜画像診断機器が主力の米国外でも売上を拡大したことなどにより増収、営業利益はバイオサイエンス・眼科診断の両分野ともに先行投資が増加して減益
- **前回予想比:** 眼科診断分野の研究開発費が一部下期にシフトしたため営業損失は縮小

単位：億円	17年3月期 上期実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上収益	260	310	298	+38	▲12
増減比				(+14.6%)	(▲3.9%)
営業利益	12	10	15	+3	+5
売上収益比	4.6%	3.2%	5.0%		

- **前年比:** 産業機器は米国及びアジアの市況回復を受け、画像測定システムおよびX線検査装置を中心に増収、その他事業も売上拡大
- **前回予想比:** 産業機器事業は計画通り進捗。その他事業は一部経費の下期への繰延等によって利益は上振れ

1. 2018年3月期第2四半期決算報告

2. 構造改革の中間報告

3. 2018年3月期の見通し

## 全社

- **ポートフォリオ経営を始動**
  - 資本コストを考慮し事業群・製品の将来を評価
- **ROE/ROICを軸に経営体質と管理プロセスを見直し**
- **ガバナンス強化**
  - 役員報酬はROE/ROICに連動
  - 取締役会の第三者による実効性評価を予定

➡ **今期末までに合計300億円固定費を削減  
(国内：200億円、映像事業の生産体制最適化：100億円)**

## 本社機構

- **効率化と機能強化の両立**
  - グループに点在する光学設計・光学部品生産を集約
  - 研究開発本部と各事業の連携を強化
  - 基礎・応用研究の絞り込み
  - 本社は200名規模の人員を適正化

➡ **効率化・集約効果等で生産性を向上**

## 映像事業

- **売上重視・フルラインアップ展開からの脱却**
  - 高付加価値製品への選択と集中
- **人員の最適化**
  - 国内350名規模、海外3,000名以上の適正化
- **開発・生産・販売体制の最適化**
  - 開発：設計効率化のための組織再編
  - 生産：主要な生産拠点を5拠点から4拠点へ
  - 販売：欧州販売体制を9販社から5販社へ、新興国もゼロベースで見直し

➡ **収益モデルを強化し、市場縮小の中でも収益率を改善**

## 半導体装置事業

- **事業戦略の抜本的な見直し**
  - 既存顧客を中心に採算性を重視
  - 受注生産を徹底し、廃棄・評価減リスク最小化
  - 収益性を重視した開発体制へ変革
- **人員の最適化**
  - 1,000名規模の適正化（配置転換含む）

➡ **黒字化の定着に目途、資本コストを上回る収益性の実現に向けて事業基盤を強化**

1. 2018年3月期第2四半期決算報告

2. 構造改革の中間報告

3. 2018年3月期の見通し

2018年3月期  
売上収益

• **全社見通しを100億円上方修正**

- **映像事業**：各製品カテゴリーの販売台数を見直し、売上収益を100億円上方修正

2018年3月期  
営業利益

• **全社見通しは450億円を据え置く**

(構造改革関連費用控除前 510億円)

- **映像事業**：構造改革関連費用60億円を追加計上  
販売増と経費効率化で一部カバーし20億円下方修正
- **精機事業**：半導体およびFPD装置事業の収益改善により  
20億円上方修正

2018年3月期  
当期利益

• **全社見通しは40億円下方修正して300億円**

(構造改革関連費用控除前 370億円)

- 映像事業の構造改革関連費用は税金費用を含めて70億円  
当費用が税負担軽減につながらない影響を反映



# 2018年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	17年3月期 実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 見通し	前年 同期比	前回 予想比
<b>売上収益</b>	<b>7,492</b>	<b>7,000</b>	<b>7,100</b>	<b>▲392</b>	<b>+100</b>
増減比				(▲5.2%)	(+1.4%)
<b>営業利益</b>	<b>7</b>	<b>450</b>	<b>450</b>	<b>+443</b>	<b>±0</b>
売上収益比	0.1%	6.4%	6.3%		
<b>税引前利益</b>	<b>30</b>	<b>470</b>	<b>450</b>	<b>+420</b>	<b>▲20</b>
売上収益比	0.4%	6.7%	6.3%		
<b>当期利益</b> (親会社の所有者に帰属)	<b>39</b>	<b>340</b>	<b>300</b>	<b>+261</b>	<b>▲40</b>
売上収益比	0.5%	4.9%	4.2%		
<b>FCF</b>	<b>566</b>	<b>250</b>	<b>250</b>	<b>▲316</b>	<b>±0</b>
為替：USDドル	<b>108円</b>	<b>110円</b>	<b>111円</b>	売上収益への予想影響額 +92億円   +34億円	
ユーロ	<b>119円</b>	<b>121円</b>	<b>123円</b>	営業利益への予想影響額 +9億円   +3億円	

①期末配当金は未定 ②為替の下期見通しは据え置き

# 2018年3月期 通期見通し：セグメント別業績



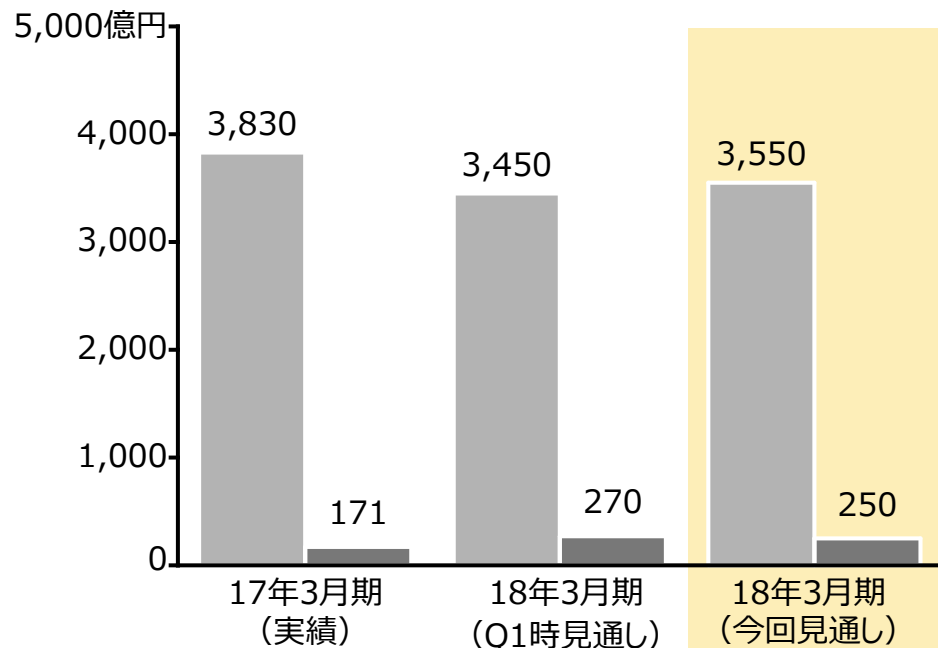
単位：億円		17年3月期 実績	前回予想 (8/3)	18年3月期 見通し	前年 同期比	前回 予想比
映像事業	売上収益	3,830	3,450	<b>3,550</b>	▲7%	+3%
	営業利益	171 (281)	270 (270)	<b>250</b> <b>(310)</b>	+79億円	▲20億円
精機事業	売上収益	2,480	2,250	<b>2,250</b>	▲9%	±0%
	営業利益	134 (481)	450 (450)	<b>470</b> <b>(470)</b>	+336億円	+20億円
ヘルスケア 事業	売上収益	557	600	<b>600</b>	+8%	±0%
	営業利益	▲6 (▲1)	▲40 (▲40)	<b>▲40</b> <b>(▲40)</b>	▲34億円	±0億円
産業機器・その他	売上収益	624	700	<b>700</b>	+12%	±0%
	営業利益	37 (55)	50 (50)	<b>50</b> <b>(50)</b>	+13億円	±0億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	-	-	-	-	-
	営業利益	▲328 (▲275)	▲280 (▲280)	<b>▲280</b> <b>(▲280)</b>	+48億円	±0億円
連結	売上収益	7,492	7,000	<b>7,100</b>	▲5%	+1%
	営業利益	7 (541)	450 (450)	<b>450</b> <b>(510)</b>	+443億円	±0億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

セグメント変更に伴い、「ヘルスケア事業」の前回予想には旧セグメント「インストルメンツ事業」のマイクロスコープ・ソリューション事業部分と旧セグメント「メディカル事業」の合算値を、「産業機器・その他」の前回予想は旧セグメント「インストルメンツ事業」の産業機器事業部分と旧セグメント「その他」の合算値を表示

売上収益・営業利益

■売上収益 ■営業利益



## レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q1時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模	1,177	1,070	1,100
ニコン	310	250	260

## 交換レンズ (万本)

	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q1時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模	1,920	1,800	1,800
ニコン	462	370	390

## コンパクトデジタルカメラ (万台)

	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q1時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模	1,260	1,040	1,140
ニコン	319	230	260

### • 売上収益：100億円上方修正 前年比280億円の減収

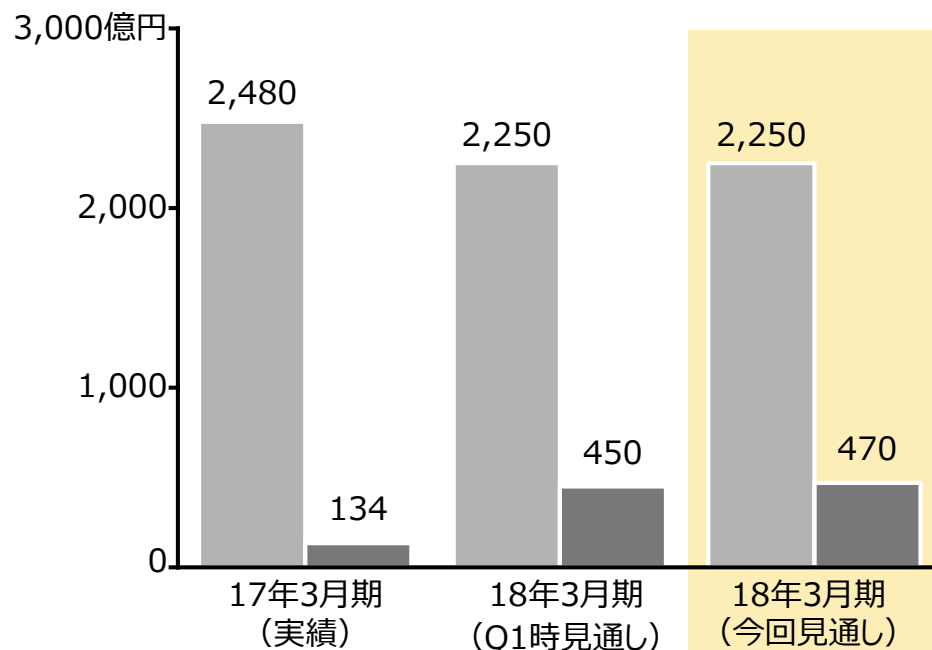
- カメラ市場の縮小継続、各カテゴリーで販売台数減少
- 前回予想比、市場規模と販売台数を見直し、100億円上方修正

### • 営業利益：20億円下方修正 前年比79億円の増益

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、281億円
- 今期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、前年比29億円増の310億円
- 営業利益率は前期7.3%から1.4pts改善して8.7%（構造改革関連費用控除前）

売上収益・営業利益口

■売上収益 ■営業利益



## 半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q1時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模 (CY16/17)	210	210	210
ニコン	24/11	17/10	17/12

## FPD露光装置販売台数 (台)

	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q1時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模 (CY16/17)	128	150	150
ニコン	92	68	68

## ● 売上収益：前回予想据え置き 前年比230億円減収

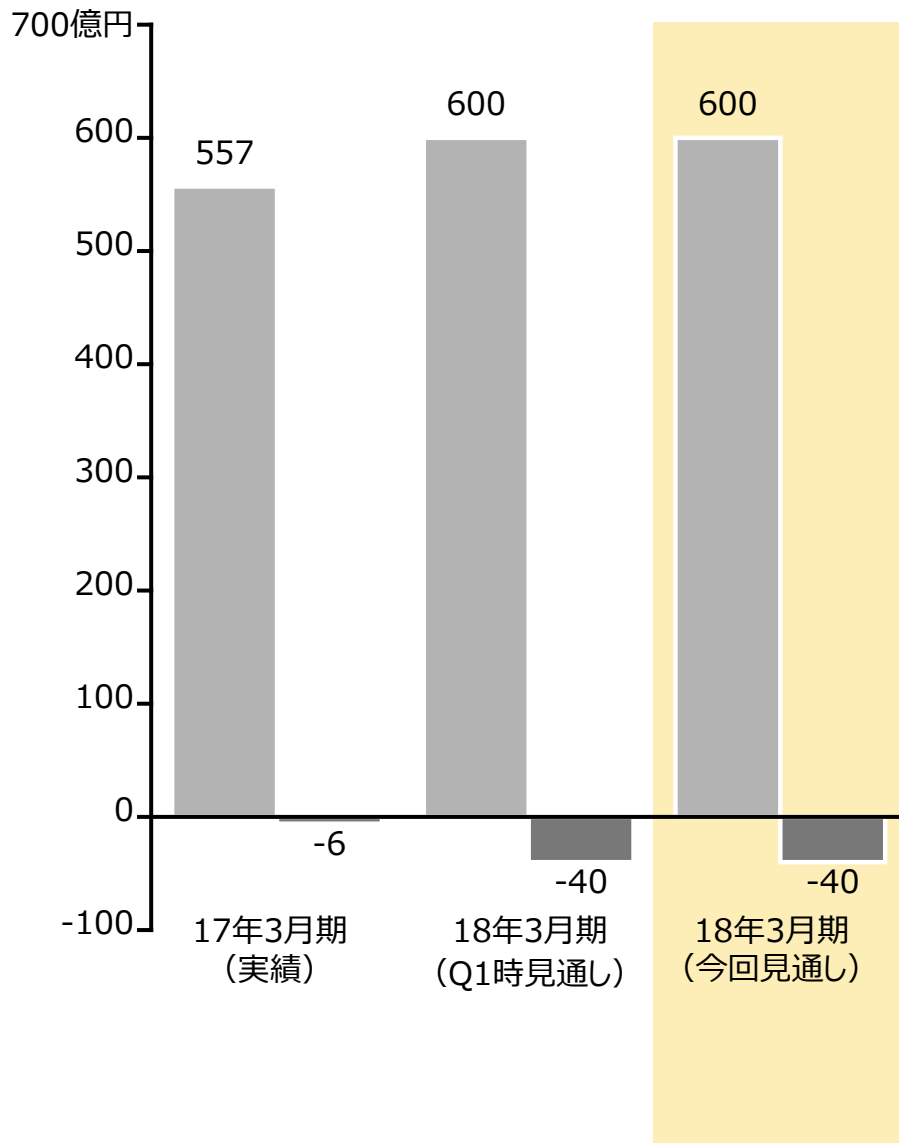
- FPD：台数減少にともない減収
  - ▶ 中小型パネル向けの 新規ライン投資が減少
  - ▶ 大型パネル向けの 新規ライン投資が本格化 (G10.5装置は3台予定)

## ● 営業利益：20億円上方修正 前年比336億円増益

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、481億円
- 営業利益率は前期19.4%から1.5pts改善して20.9% (構造改革関連費用控除前)
- FPD：減収影響に加え、製品ミックスの変化により減益
- 半導体：黒字化達成を見込む

売上収益・営業利益口

■売上収益 ■営業利益



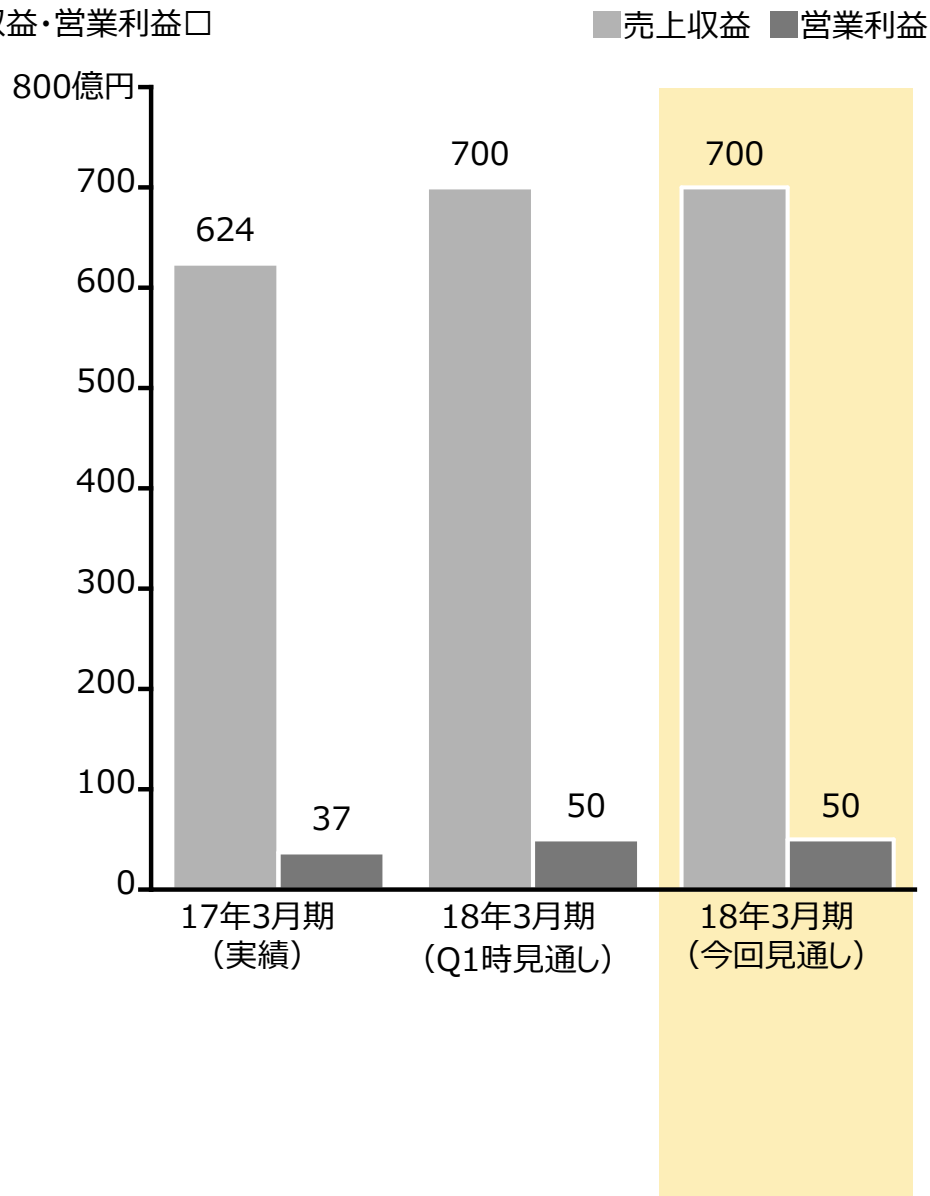
## • 売上収益：前回予想据え置き 前年比43億円増収

- 生物顕微鏡のシェア拡大による販売増
  - ▶ 再生医療関連で売上計上も、利益貢献までには時間が必要
- 網膜画像診断機器は市場の成長とともに堅調に推移

## • 営業利益：前回予想据え置き

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、▲1億円
- 眼科診断分野でのビジネス拡大に向けた投資が一時的に拡大
- 新体制で早期黒字化を目指す

売上収益・営業利益口



● **売上収益：前回予想据え置き  
前年比76億円増収**

- 産業機器：自動車や電子部品関連分野で顧客の評価が高い画像測定システムや工業顕微鏡、X線検査装置などを中心に販売拡大

● **営業利益：前回予想据え置き  
前年比13億円増益**

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、55億円
- 産業機器：増収による増益



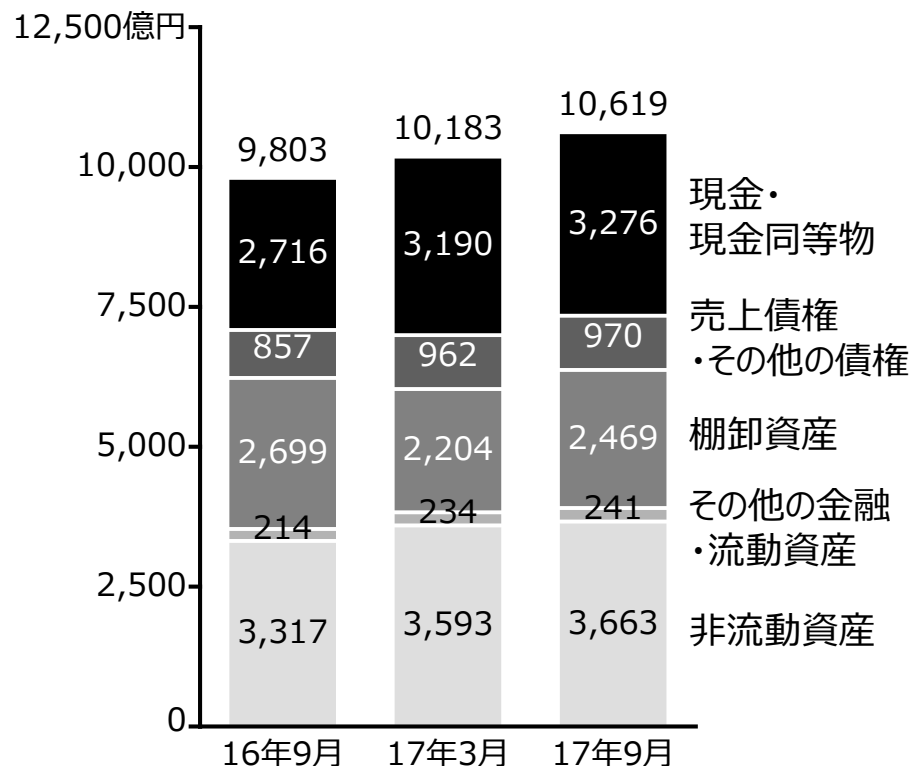
*Nikon* (th)  
*100*  
*anniversary*

**NIKON CORPORATION**

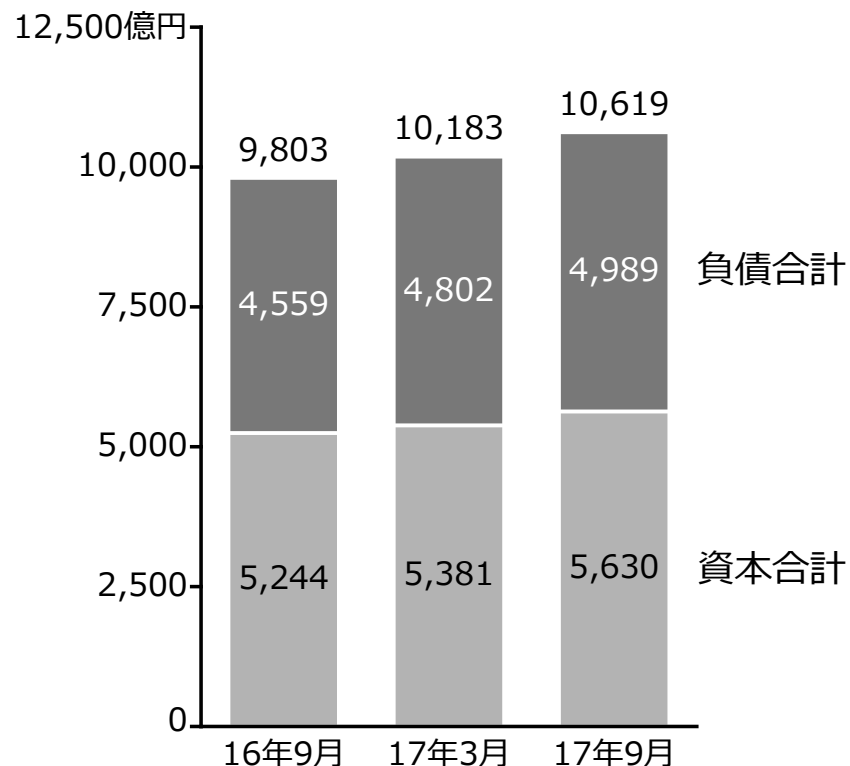
# 參考資料



## 資産

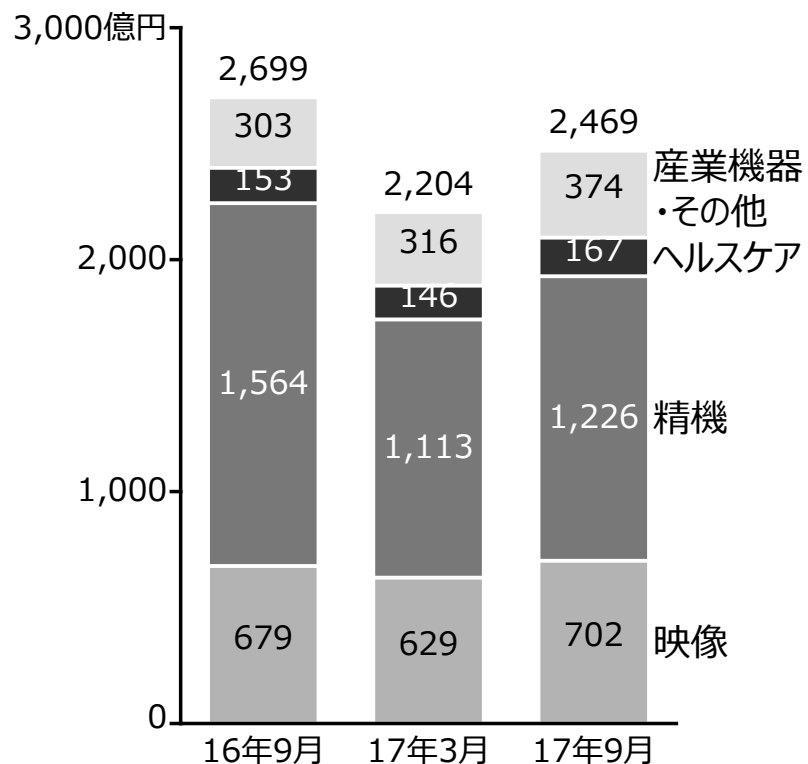


## 負債・資本

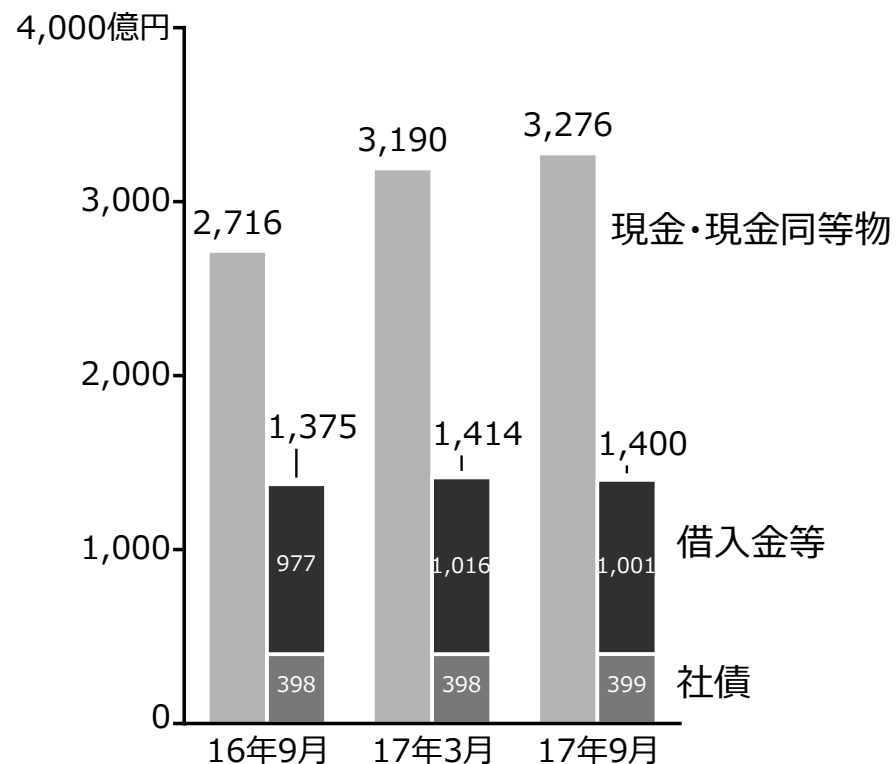


自己資本比率 53.4% 52.8% 53.0%

## 棚卸資産

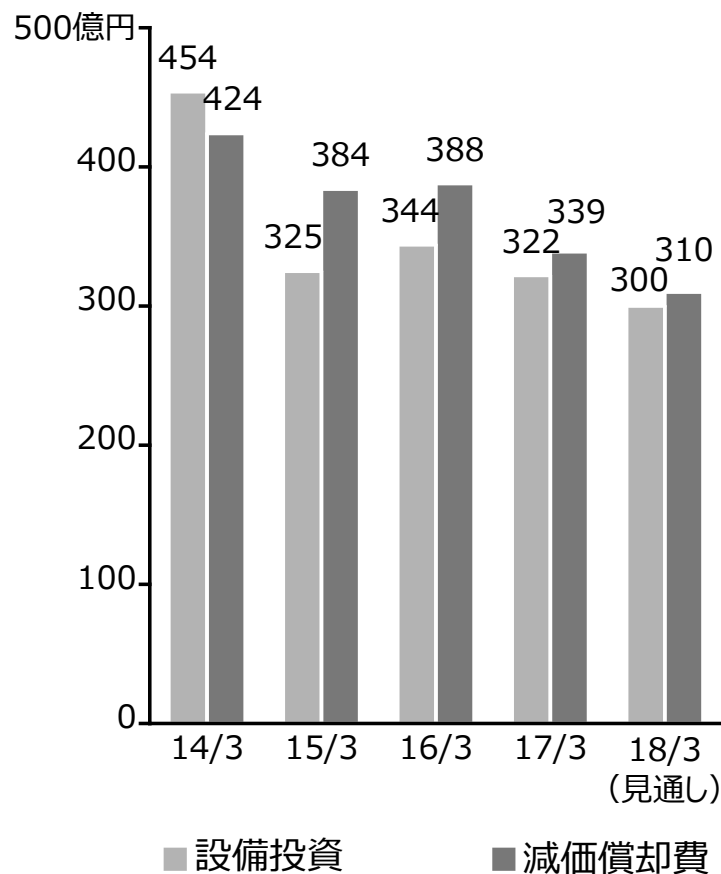


## 現預金・有利子負債

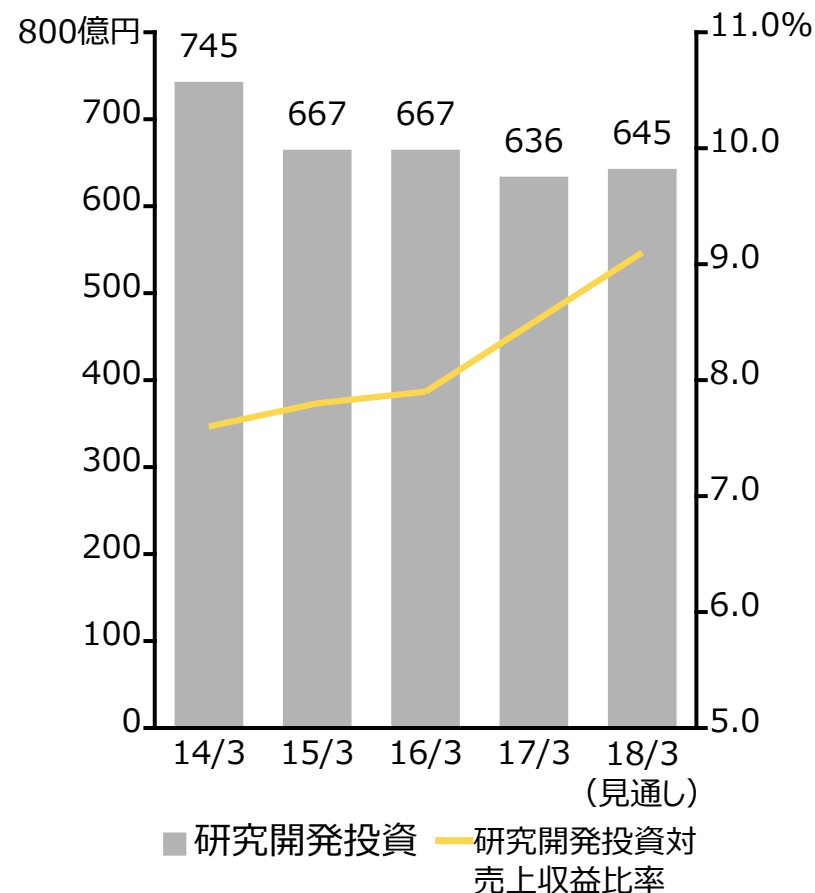


注：現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示

## 設備投資・減価償却費

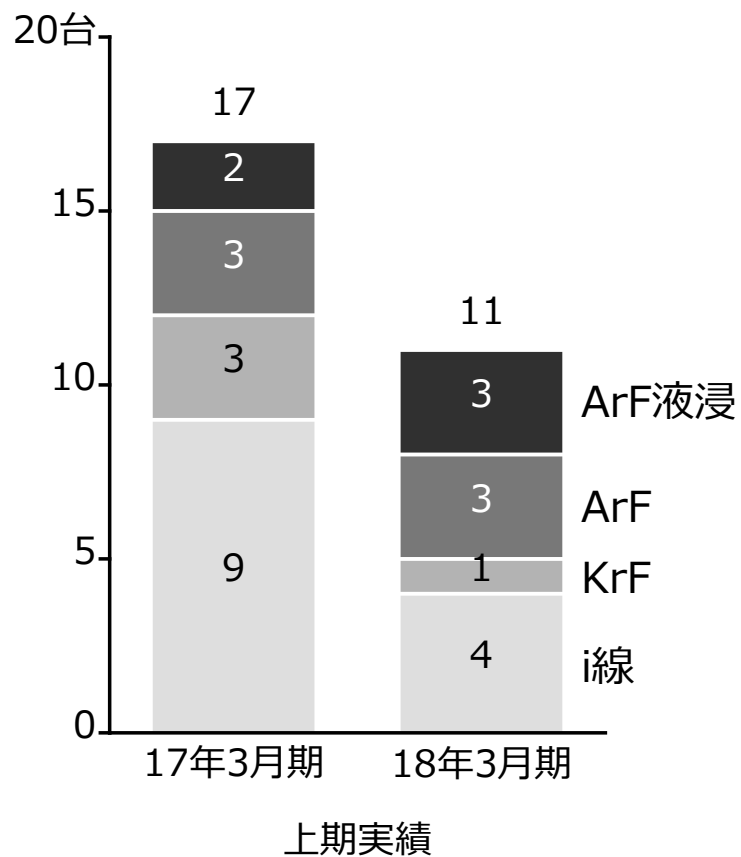


## 研究開発投資

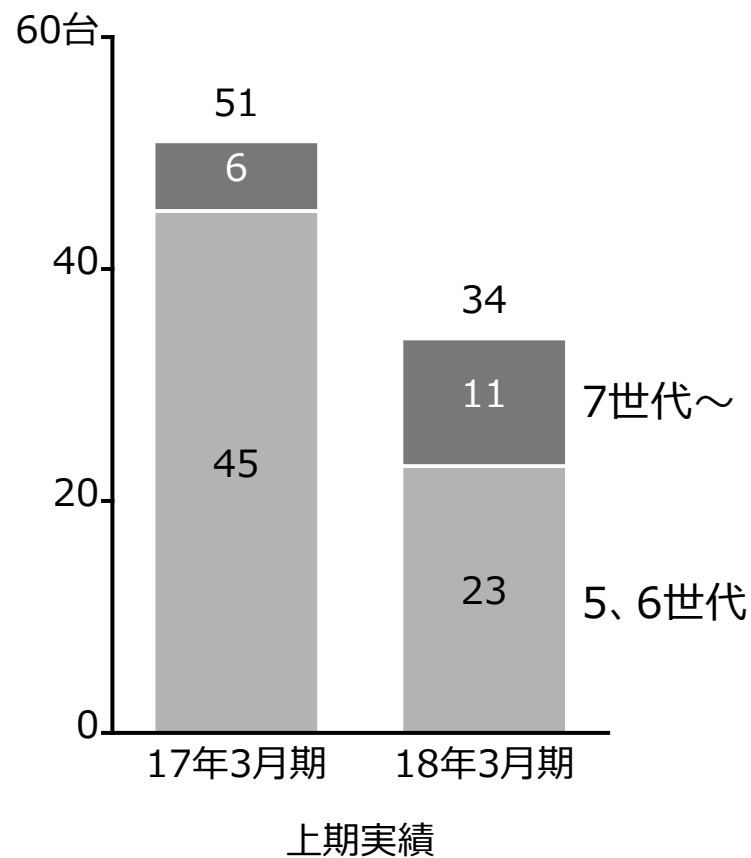


注：2015年3月期以前は日本基準、2016年3月期以降は国際会計基準（IFRS）で表示  
 「減価償却費」は、2015年3月期以降コングループの減価償却方法を定額法に統一、2016年3月期以降は仕掛開発費の償却も含めて表示  
 「研究開発投資」には、2016年3月期以降に行っている開発投資の一部資産化も含めて表示

### 半導体露光装置光源別販売台数 (中古含む)

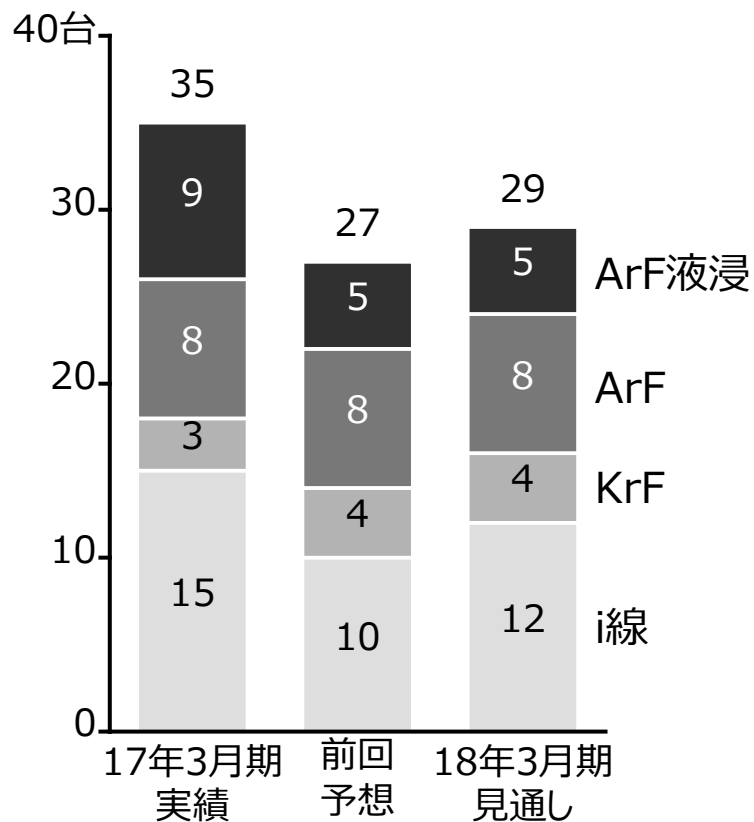


### FPD露光装置世代別販売台数

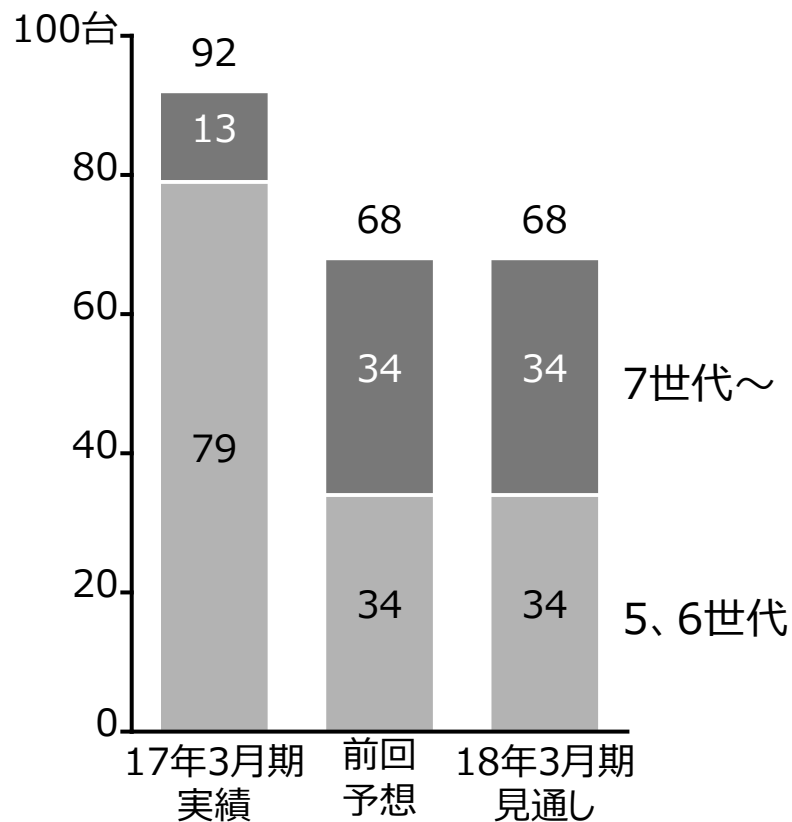


注: 半導体露光装置の新品の台数は、2017年上期は11台、2018年上期は7台

### 半導体露光装置光源別販売台数 (中古含む)



### FPD露光装置世代別販売台数



注：半導体露光装置の新品の台数は、2017年3月期は24台、2018年3月期は17台の見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	18年3月期 下期前提	売上収益 下期	営業利益 下期
USドル	110円	約15億円	約2億円
ユーロ	120円	約5億円	約3億円

# 2017年3月期：新セグメント別業績



単位：億円

		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
映像事業	売上収益	944	839	1,225	822	3,830
	営業利益	101 (101)	47 (47)	83 (83)	▲60 (50)	171 (281)
精機事業	売上収益	518	635	724	603	2,480
	営業利益	148 (148)	103 (103)	▲106 (192)	▲11 (38)	134 (481)
ヘルスケア 事業	売上収益	106	134	132	185	557
	営業利益	▲10 (▲10)	4 (4)	▲7 (▲7)	7 (12)	▲6 (▲1)
産業機器・ その他	売上収益	123	137	142	222	624
	営業利益	2 (2)	10 (10)	10 (10)	15 (33)	37 (55)
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—
	営業利益	▲61 (▲61)	▲72 (▲72)	▲67 (▲67)	▲128 (▲75)	▲328 (▲275)
連結	売上収益	1,693	1,745	2,223	1,831	7,492
	営業利益	180 (180)	91 (91)	▲86 (212)	▲178 (58)	7 (541)

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

Q1およびQ2の数値はIFRS基準の監査を踏まえた数値、Q3およびQ4の数値はIFRS基準の監査前の数値



**NIKON CORPORATION**